- 17 東京都大田区住宅街のネズミ生息調査
谷川 力、小瀧正博（イカリ消毒株式会社）、
田邊 光（大田区保健所）
Distribution of commensal rodents in residential area in Ohta Ward,
Tokyo
Tanikawa T., Odaki M. and Tanabe H.

昨年、ネズミの苦情が多い同区住宅街においてネズミの生息調査を行った。調査方法は、住宅の庭では金網トラップで、住宅の天井は粘着トラップで捕獲した。その結果、どちらのトラップでもドブネズミとクマネズミが捕獲され、屋外でのクマネズミの活動や屋内天井でのドブネズミの生息が明らかになった。また、一部のクマネズミのワルファリン抵抗性を調べたところ、明らかなワルファリン抵抗性個体が含まれていた。

19 鼠地名の生成に関する考察

長谷川 恩

A Study on the geographical designation which contains the
letter of "NEZUMI(=rat)" in Japan

Megumi Hasegawa

演者は長くわが国の各地に存在する鼠地名について、その命名の根拠を解明する目的で調査重ねて来た。現在演者の承知しているこの種の地名は293カ所を数える。この地名に於いて「鼠」の字が使用されるに至った根拠について、これまでに知りえた私見を述べる。

鼠地名の生成は大別して二群に分けられ得る。第一は直接ネズミの存在を根拠とするもので、これを「直接群」と呼ぶ。これにはネズミの形態に関係するもの、環境がネズミの生態に関係するもの、その場所でネズミの生息、発生などの事実が記録されるもの、ネズミに纏わる伝説に基づくと説明されるもの、ネズミに対する信仰から生まれたとされるもの、ネズミに対する卑称に関係するものが挙げられる。

第二群は「ネズミ」という表現に近い言葉から訛化して生まれたと考えられるもので、演者はこれを「訛化群」と呼ぶことにする。このカテゴリーに属する語源としては「不寝見」・「根締」・「子隅」・「尾根隅」・「根住」・「根水」・「泉・和泉」・「泥・滞」・「ネ積」・「水見」・「根津」・「念珠」・「チュウ」・「動植物名」・「地形語」・「ソ音」の16が数えられるが、演者も最も知りたいと考えている、何故これらの言葉が「鼠」の文字に変化したかという説明についての的確な資料は殆ど見出し得ていないのが現状である。

この点については、将来とも調査を継続したいと考えるが、或いはこの種の根拠の記録の欠如しているのは、ネズミによって引き起こされる事件は日常茶飯事として特に記録に留める必要を感じなかった程、日本人とネズミの共同生活が密接であったという事実を裏書きするものでもあろう。

18 クマネズミの餌喫食性を評価するための方法

伊藤靖忠（日環センター）

A method for estimating food preference of roof rats, *Rattus*
rattus

Yasutada Ito

クマネズミの防除を殺鼠剤で行う場合、毒餌の餌材料および殺鼠剤成分自体の喫食性が、その成果に大きく関与することが分かっている。演者は、クマネズミに対して2種の材料を用いた選択喫食試験を行い、両者の喫食性の差を比較評価する方法として指数（A-index）の活用を提案している（伊藤、1998大会：[A-index={ (a-b)/(a+b) } × 100, a or b = (供試材料の1日当たりの喫食量)]）。この方法の有用性を確かめるため、今回は餌材料に対する着色の有無と餌材料の違いについてA-value[A-indexの総平均（1日・1個体当たり）]を用いて比較評価することを試みた。1）着色の有無：食品添加物（食用赤色2号）で赤に着色したヒマワリの種(a)と無着色のそれ(b)について、雌雄5匹ずつのクマネズミに対する選択喫食試験を行った結果、a、bの喫食量に有意差はなく、A-value=3と0に近い小さな値を示した。このことから、赤に着色したことによる喫食量への影響はなかったと判断された。2）餌材料の違い：玄米粉(a)と実験動物用粉末飼料(b)について、雌雄5匹ずつのクマネズミに対する選択喫食試験を行った結果、個体差が大きく、4個体は粉末飼料を、3個体は玄米粉を有意に多く喫食したが、A-value=-18という値が得られ、本試験の総合評価としては粉末飼料をより好むとの判定になった。

20 衛生害虫の伝統的な対応法 (7)

○秦 和壽

栗原 毅（国立感染症研）

Traditional control methods of medically
important insects and mites.(7)

Hata K. and Kurihara T.

衛生害虫類の伝統的な防除法を紹介してきたが、今回はネズミと防鼠具に関する報告である。弥生時代の穀物庫には、「鼠返し」が設けられていた。防鼠法には①侵入防止のための「鼠返し」「鼠入らず」等がある。②天敵では經典の鼠害防止のため「ネコ」が導入された。③薬剤関係では江戸時代からの石見銀山の「鼠捕薬＝砒素」が著名で明治には「猫いらず＝黄燐製剤」が商品化された。④粘着法はすでに江戸時代から「鳥もち」を使用した。⑤伝統的な防鼠具は「わな」であり、こういった用法は「落とし」と呼ばれる。明治時代の海外由来のペスト騒ぎは、同時にトラップ法が持ち込まれた。一つは「発條型＝いわゆるパチンコ型」である。もう一つは針金使用の「かご型」である。今回は特に「かご型」を紹介する。